



気になるあいつ

わかぎるふ

双葉社

続・こんなことが
あつていいのか!?

前回、隣の家の屋根に穴があいているとご報告したばかりだった。現在には住んでいるわけではないのだが、隣のおじさんが今も仕事に使っている平屋の古い家である。その屋根にポツンと穴が開き、瓦が滑り落ち始めて、広がっていくのが毎日観察できた。

珍しいというか、目の前で見るのはこっちの方なんでドキドキしながら暮らしていた。いつ崩れ落ちるのか? と思いつつ。

先日、偶然にもうちの旦那が一日中仕事で深夜まで帰ってこなかった日のことだ。私はうちの劇団の女性陣2人ともうひとり友達を呼んで女

ばかりで飲んでいた。ひとりが一階のトイレに行った時である。ちょうど夜の12時だった。

ガサガサツ：バサバサバサツ！ ドドドドド！ と乾いた大きな音がした。

「なに？ あの子、トイレでなんかやったん？」

と最初は一階のトイレあたりでなにか壊したのか？ と思った。が、すぐに私は、

「隣の家や！」

と叫んだ。きつとそうだと思った。乾いたものが落ちていく爆音。これはあの屋根がついに落ちたと。

しかし、夜中の12時だったので窓をあけてもよく見えない。そこで隣接している窓の明かりをすべてつけて、みんなで覗き込んだ。

「あ：やつぱり」と言っただけ、私はその光景をポカンと見た。月夜にぽっかりと浮かんだ屋根に大きな穴のあいた家。そんなものを平成16年

にもなって見ようとは。しかも都会の真ん中の我が家の隣で。

「すつごい…まじで穴開いてるで」

「つていうか、これ放っておいていいんですか？ 隣の人が下におつたら怪我してますよ」

「いや、今日はおれへんはず」

などといいながら女4人で隣の家の穴を肴にワインを飲み、しばらく鑑賞した。

そしてその後、1時間くらいしてまた爆音が2回聞こえ、穴がさらに広がった。その時は最初の時よりも大きな音だったが、こっちも慣れて「来た、来た！」などと言いつつ、また走って電気をつけ見に行った。

しかし、こんどはシャレにならないくらい大きな穴になっていて、家の中のエアコンが柱に引っかかって、ぶらんぶらんと揺れているのまで見えた。家の中の襖らしきものや、電線まで。

「やばいで、漏電するのんちやう？」

と誰かが言い出して、本当にちよつと不安になった。

一夜明けて、隣のおじさんが仕事に来たら、せめて、

「電線とか処理して下さいね」

と言おうと思っていたが、なかなかチャンスもなく言っていない。先日会った時は、

「ああ、おはようさん」

とだけ言われた。どうやら家の中のものを整理しているようではあったが…。

うううっ！　こんなことでもいいのだろうか？　下から見てるからあんなに呑気なのだろうか？　彼はうちに来て上から穴をよく見た方がいいのだろうか？　だが実際に穴があそこまで広がってるのに、ぶら下がったままになってるエアコンもいっこうに外す気配すらない。嗚呼、どうしてこんなに面白いものがうちの隣に放置されているのだろうか？　私にエッセイのネタを提供してくれてる、としか思えないではないか！

そんなわけでまだまだ崩壊しそうな穴だが、うちの4階のベランダからロングで撮ってみた写真が今回の一枚である。なかなか壮絶な光景だ。上から見ると爆弾でも落ちたかのような穴ではないか。

ともかく隣人としては、どうしようもないので漏電に備えて火災保険をかけることにした。自分の身は自分で守るしかなさそうだ。

【著者略歴】

わかぎあつふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっここのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『太りすぎの雲』『イブの抜け穴』など多数。
